

## …世界にひろがるAMDAのネットワーク

AMDAパキスタン洪水被災者に対する  
緊急医療支援活動

パキスタンでは7月下旬から続く大雨により、1947年の建国史上最悪といわれる水害に見舞われた。パキスタン政府国家災害対策局（National Disaster Management Authority: NDMA）の情報によると、10月9日時点で、被災者約2000万人、死者推定1961人、負傷者2907人、破損家屋190万戸余りとなっている。洪水被害は国内の北西部から南部に広がっており、パキスタンの全122県のうち79県が被災した。被災者のうち、少なくとも半数は人命救助のための人道支援が必要とされている。

AMDAは9月2日にAMDAアフガニスタンの医師2人を現地協力団体NRSP（National Rural Support Programme）のイスラマバード本部に派遣した。NRSPとの協議の後、AMDAアフガニスタン医療チームの医師2人・看護師2人は9月6日からハイバル・パフトンハー州（旧北西辺境州）ノウシェラ県のアザクヘルキャンプ（ペシャワールから15km）で巡回診療を開始した。アザクヘルキャンプにはアフガニスタンからの難民が生活しているため、AMDAアフガニスタン支部への強い要請があった。AMDAアフガニスタンは9月6日から9月30日までアザクヘルキャンプなどノウシェラ県内の避難キャンプで巡回診療を行い、合計で2464人を診療した（9月8日から14日まではラマダーン祝日）。当初懸念されていたコレラやマラリアの流行はなく、主な疾患は下痢（22%）、急性呼吸器感染症・耳鼻疾患（21%）、皮膚疾患（15%）、眼の疾患（12%）、マラリア（6%）だった。

パキスタンでの洪水被害が南部にも拡大したことを受けて、9月16日からは南東部シンド州タッタ県にAMDA岡山本部から第1医療チーム（菅波代表、瀧崎医師、渡辺看護師、土佐調整員、ヴィーラバグ調整員）を派遣した。16日に巡回診療を行った同県ゴーラ・バーリーでは、被災者から「洪水は1ヶ月続き、町・地域全体が水没する大きな被害であった」「避難所には、着のみ着のまま、最低限の生活用品しか持っていない家族が多い」など窮状を訴える声が寄せられた。9月24日にはAMDAインドネシア支部の医師2人・看護師1人がタッタ県の巡回診療活動に合流した。9月29日からは第1医療チームにかわり第2医療チーム（細村医師、米田医師、松本看護師、土佐調整員 ※土佐は第1チームから継続）とAMDAバングラデシュ支部の医師1人・医療助手1人・調整員1人がタッタ県での活動を引き継いだ。9月17日から10月8日までに合計2515人を診療し、うち43.6%を15歳未満の小児患者が占めた。主な疾患は、15歳未満では風邪（32%）、皮膚疾患（15%）、耳鼻科疾患（14%）、下痢（8%）、肺炎（6%）、栄養失調・貧血（5%）。15歳以上は、慢性疾患（28%）、胃炎（17%）、皮膚疾患（11%）、風邪（10%）など。下痢は北部に比して少なくマラリアは非常に少なかった。胃炎、全身倦怠感、疲労など精神的、身体的ストレスを訴える患者も多く見られた。インドネシア支部の派遣者は10月7日、バングラデシュ支部の派遣者は10月8日に帰国した。日本の第2医療チームは10月9日にカラチを出発し、10月10日に日本へ到着した。これまでの患者総数 4979名。

◆今後はカラチから北へ車で1時間半ほどの距離にある避難キャンプで、小学生のための仮設校舎、子どもの医療保健、女性の生活支援を行うことを視野に入れ、ハムダード大学と協議を行っている。ハムダード大学は現在、その避難キャンプで洪水被災者のために食料支援や巡回診療を行っている。

パキスタン大洪水緊急支援医療団 10月12日までの合計 派遣者総数20名

	医師	看護師	調整員	計
日本	4	2	2	8
インドネシア	4	2	0	6
バングラデシュ	2	1	0	3
アフガニスタン	1	1	1	3

◆皆様からのご支援をお願いいたします◆

郵便振替：口座番号01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ 通信欄に「パキスタン洪水」とご記入下さい